

# 令和5年度 岩手県立美術館協議会

日 時：令和5年12月14日（木）

13:30～15:30

場 所：岩手県立美術館 会議室

一 次 第 一

1 開 会

2 館長挨拶

3 議 事

(1) 協議事項

ア 岩手県立美術館の概要について【資料1】

イ 令和4年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況について【資料2】

ウ 令和5年度事業実施状況について【資料3】

エ 観覧者数の推移について【資料4】

オ 令和6年度事業実施計画(案)について【資料5】

カ 令和6年度企画展概要(案)について【資料6】

(2) その他

4 閉 会

## 令和5年度岩手県立美術館協議会出席者名簿

令和5年12月14日(木)開催

### 【委 員】(五十音順)

氏 名	役職名等	出欠状況
合 川 常 美	盛岡ターミナルビル株式会社ホテルメトロポリタン盛岡マーケティング部セールスグループマネージャー	出席
安 部 修 司	日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会会长	出席
伊 藤 真 紀 子	花巻市教育委員会教育部文化財課課長補佐	出席
大 衡 彩 織	一関市博物館副館長兼学芸係長	出席
梶 田 佐 知 子	特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会事務局長	欠席
加 村 な つ え	岩手芸術祭美術展現代美術部門理事岩手デザイナー協会会員	出席
菅 し の ぶ	株式会社菅文常務取締役	出席
清 川 義 彦	岩手県立不來方高等学校校長	出席
志 田 芽 衣 子	株式会社岩手日報社編集局整理部	出席
鈴 木 美 成	盛岡市立大宮中学校校長	出席
田 中 麻 里	岩手県立美術館友の会運営委員	出席
樋 下 照 男	盛岡市立本宮児童・老人福祉センター館長	出席
八 重 横 深 雪	盛岡市立渋民小学校校長	欠席
柳 田 陽 一	県立学校美術教員	出席
山 口 真 樹	一般社団法人岩手県 P T A 連合会副会長	出席

(出席13名、欠席2名)

### 生涯学習文化財課 出席者

氏 名	職 名	備 考
小 澤 則 幸	総括課長	
菊 池 剛	主幹兼生涯学習担当課長	
猿 ケ 澤 茂 樹	主査	
山 崎 美 咲	主事	

### 文化振興事業団 出席者

氏 名	職 名	備 考
藤 澤 修	事務局長兼総務部長	

### 岩手県立美術館 出席者

氏 名	職 名	備 考
藁 谷 収	館 長	
多 賀 聰	副館長	
千 田 貴 浩	総務課長	
吉 田 尊 子	学芸普及課長	
加 藤 俊 明	上席専門学芸員	
岩 渕 豊 弘	主任専門学芸調査員	
住 吉 オ リ エ	主任専門学芸調査員	
久 保 田 幸 恵	主任主査	
杉 田 友 視	主査	

## 岩手県立美術館の概要

令和 5 年 4 月 1 日現在

項目	内 容	
施設・開館の概要	<p>・開館(H13年10月6日) 【2001年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地面積 21,157.35 m<sup>2</sup>(盛岡中央公園内)</li> <li>・建築面積 10,061.66 m<sup>2</sup></li> <li>・延床面積 13,000.00 m<sup>2</sup></li> <li>・展示室面積 3,187.00 m<sup>2</sup> (企画展示室 1,223 m<sup>2</sup>、常設展示室 1,964 m<sup>2</sup>)、ホール 187 m<sup>2</sup>、アートスペース 79 m<sup>2</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築構造 鉄筋コンクリート造・鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄骨造 地上 2 階建</li> <li>・総工費 約 9,043 百万円 (建築 6,247 百万円) (電気 988 百万円) (機械 1,808 百万円)</li> </ul>
基本理念	<p>岩手県における 21 世紀の芸術文化の拠点施設として(開館時の目標)、「①収集・保存・展示の基本的機能が充実した美術館」「②美術文化創造の核となる美術館」「③地域性と国際性を併せ持つ美術館」を目指す。</p>	
事業概要	<p>1 美術品等の収集・保管、常設展示 岩手県出身及びゆかりの作家の作品を中心に近・現代の優れた作品を収集・保管し、公開する。</p> <p>2 企画展示 幅広い視野のもとに、地域や時代にとらわれない、国内外の様々なテーマによる企画展を開催する。</p> <p>3 教育普及 美術と県民との多様な結びつきを可能とするため、各種の教育普及事業を行う。また、美術館情報システムによる美術情報の発信に努める。</p> <p>4 調査研究 美術館活動の充実を図るために、郷土の美術や国内外の美術に関する調査研究に取り組む。</p>	
館の特徴	<p>1 施設・設備 景観と調和した建物 トップライト構造のグランドギャラリー 環境への配慮(ガスボイラー、太陽光発電等)</p> <p>2 コレクション 日本近代美術を辿る上で欠くことのできない存在である萬鐵五郎、松本竣介、舟越保武の 3 人を中心に、岩手県出身又はゆかりの作家の優れた作品を収集(関連資料を含めて約 5,300 点)</p>	
運営体制	<p>1 業務委託            ①教育(学芸)業務については、県が公益財団法人岩手県文化振興事業団(以下「事業団」と標記。)に委託            ②施設管理等業務については、県が事業団を指定管理者に指定のうえ委託(R5~R9 年度: 現在 6 期目)            なお、警備、受付、看護、清掃等の業務については、事業団から民間事業者に再委託</p> <p>2 職員体制            館長(常勤) 副館長/派遣(1)  <u>総務課</u>(7)・<u>総務課長/法人</u>(1)、主任主査/法人(1)、主査/法人(1)、会計年度雇用職員(4)  <u>学芸普及課</u>(12)・<u>学芸普及課長/派遣</u>(1)            [学芸担当⑥]・上席学芸専門員/派遣(3)、主任専門学芸員/派遣(1)、専門学芸員/派遣(1)、会計年度雇用職員(1)            [普及担当⑤]・主任専門学芸調査員/派遣(2)、学芸調査員/派遣(2)、会計年度雇用職員(1)</p> <p>3 岩手県立美術館協議会(美術館条例第 10 条に規定)            委員定数 15 名(学校教育関係 3、社会教育関係 2、学識経験者 9、公募 1) 年 1 回開催</p>	

事 業 名	事 業 内 容
収集・保存活動	<p>1 本県出身及び本県ゆかりの作家を中心とした、近・現代の優れた美術品の収集を行うとともに、関連資料の収集に努める。</p> <p>2 収集にあたっては、綿密な調査研究に基づき、長期的な収集計画を立て、系統性のあるコレクションとなるよう収集を進める。</p> <p>3 美術品等の収集は、購入、寄贈及び寄託とし、学識経験者による美術品収集評価委員会に諮って行う。</p> <p>4 収集した美術品等は、良好な環境の中で安全に保存するとともに、適切な分類方法により整理・分類を行い、必要に応じて修復等を施す。</p>
展示活動	<p>1 館所蔵の美術品等を常設展示室において紹介する。</p> <p>2 収集の柱である萬鐵五郎、松本竣介、舟越保武の3人の作家については、「萬鐵五郎展示室」「松本竣介・舟越保武展示室」において重点的に展示を行う。</p> <p>3 水彩、水墨等の劣化、褪色しやすい紙作品の保存に配慮するとともに、より多くの美術品を県民に公開するため、年4回程度（紙作品においては8回程度）の定期的な展示替えを行う。</p>
	<p>国内外の様々なテーマによる企画展を開催し、県民に優れた美術鑑賞の機会を提供する。</p> <p>【年間構成の考え方】</p> <p>1 欧米の近・現代美術に関する企画展（年間1~2本程度）</p> <p>2 日本の近・現代美術に関する企画展（年間1~2本程度）</p> <p>3 工芸、写真、デザイン、メディアアートなど国内外の多様な美術を紹介する企画展（年間1本程度）</p> <p>4 県ゆかりの作家及び関連する作家の企画展（年間1本程度）</p>
調査研究活動	<p>1 本県の美術をはじめとして国内外の美術に関する調査研究を行い、その成果を美術品の収集や企画展等に反映させる。</p> <p>2 美術館教育や美術品の保存技術等、美術館固有のテーマについての調査研究にも取り組む。</p>
教育普及活動	<p>1 学芸員による作品解説会や研究者等を招いた各種の美術館講座、美術の専門家と一般の参加者とが創作体験を共有するワークショップ、コンサートなど、県民に多様な美術学習、美術体験の場を提供する。</p> <p>2 ライブライバーにおける図書閲覧、デジタルビジョン・レファレンスにおける映像番組の視聴や高精密画面での所蔵作品の検索等、国内外の様々な美術情報の提供に努める。</p> <p>3 インターネットのホームページを通じて、美術館の情報を国内外に積極的に発信する。</p> <p>4 学校との連携について、一層の推進を図る。</p>

## 令和4年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況

【令和4年度美術館協議会(令和4年12月15日開催)】

1 説明事項「令和3年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況(会議資料2)」について

主な意見要望等	対応状況
特になし	

2 説明事項「令和4年度事業実施状況(会議資料3)」について

主な意見要望等	対応状況
特になし	

3 説明事項「観覧者数の推移(会議資料4)」について

主な意見要望等	対応状況
特になし	

4 説明事項「令和5年度事業実施計画について(会議資料5)」

「令和5年度企画展概要について(会議資料6)」について

主な意見要望等	対応状況
① 来年度予定の自主企画展の「不安の時代を生きる」について、分かる範囲で目玉になるような作品や、どのような画家が登場するのか教えていただきたい。	<p>(前回回答) 岩手の大正から昭和、戦後にかけてのいろいろな活動の話になる。五味清吉という画家が岩手の画壇では中心となっていた。また、社会との関係では、松本竣介の作品は欠かせない。竣介は戦争に向かっていく時代の中で自己主張した作家なので、作品の中にもいろいろなメッセージが読み取れると思う。竣介が中心になると考えている。</p> <p>(追加回答・学芸)</p> <p>「そのとき、岩手では 一展覧会でたどる、いわて美術の歴史ー」展と、名称および内容を変更して、現在準備中。明治から昭和期において、盛岡で開催された象徴的な展覧会にスポットライトをあて、当時の出品作家やその作品をご紹介することで、その歴史を改めて紐解こうというもの。県初の洋画団体、北虹会の第1回展が開催された1910年を出発点に、県ゆかりの美術家たちの作品を常設で公開する近代美術展示室を備えた県立博物館が開館した1980年まで、70年間の展覧会を扱う。県内に点在する個人</p>

	<p>や企業所蔵のものも含め、約 150 点の作品をご覧いただく本展において、岩手で「そのとき」活躍した美術家たちや、その作品の来歴をたどることは、当館コレクションの歴史をたどることに他ならず、本展が岩手の美術、また当館コレクションを再考する機会になると考えている。</p>
② フィンランドと岩手には類似性があると説明をいただいたが、フィンランドと岩手で交流などはあるのか。	<p>(前回回答) フィンランドは、何か東北のようだ、岩手みたいだと、行ったことのある人からは言われる。実際に岩手の現代作家も、フィンランドに行って制作をして、向こうで発表するなど、交流があるようだ。フィンランドと岩手は、気候や風土が似ていることから、特に親和性が高い。また工業技術センターではフィンランドのデザイナーを招いて技術の向上を図るなど、長らく交流があったと聞いている。また、フィンランドのデザイナーが岩手に来てデザインをし、それを製品として売り出している <i>i w a t e m o</i> というブランドを今回取り上げ、日本だけではなく、岩手との交流も取り上げられる展覧会になっている。</p>
③ 企画展「みちのく　いとしい仏たち」の展示の核となる、下地になる研究をされている先生がいるという話だが、どの方なのか教えていただきたい。	<p>(前回回答) 今回の監修者は弘前大学名誉教授の須藤弘敏先生という方で、青森県の仏教美術を研究されている。岩手県でいうと、亡くなられたが県立博物館にいた大矢邦宣氏のような立場の方。須藤先生が、青森、岩手の県北をずっとフィールドワークされたその成果を示す展覧会で、内容で「いとしい仏たち」という名称になった。江戸時代、東北の厳しい風土の中で生きる庶民が、日々のささやかな祈りを託していたカミさまやホトケさまの御像は、その土地の大工や僧らによって作られた、非常に素朴で親しみのある造形が特徴である。</p> <p>今回の出品の目玉は、岩手県葛巻町の宝積寺というお寺にある聖観音 6 体の御像と、八幡平市の山奥の神社に祀られた山神像である。下手、というのでもないが、造形的にはちょっとびっくりするような、稚拙でかわいらしい感じのするもの。</p>
④ 企画展の選定について昨年も質問があったかと思うが、自主事業を除き年間 4 つの企画展を開催するとあるが、基本的に例年提案のあった企画から選ぶものなのか、自らこれをぜひ引っ張ってきたいという形で企画をするものがあるのか、流れと、提案いただいている企画展というのは何点ぐらいあるものなのか教えていただきたい。	<p>(前回回答) 展覧会の企画は、大手の新聞社やテレビ局の事業部や、企画会社などから、年間を通じてたくさんのおファーが寄せられている。また、ある一つのテーマに従って、同じ関心を持つ学芸員が集まり勉強会を開き、それが成果として展覧会となるものもある。成り立ちはさまざまある。展覧会も内容によって異なる。油絵のような堅牢な作品の展覧</p>

	<p>会であれば、1年を超えて何館かを巡回する企画となるし、日本画のような脆弱なものだと1会場で1か月ぐらいしか展示ができないため、会期や巡回スケジュールに制限が出てくる。いろいろな条件やタイミングがある中で、自主企画とアートフェスタ以外の残りの本数の中で、なるべくいろいろなジャンルのものをやりたいと考えている。私どものコレクション展が岩手ゆかりの作家の作品ということで、本当に岩手の作家の作品だけなので、それ以外にいろいろな美術があることを示せるものとして、企画展はバラエティーに富んだ内容にしたいと思っている。</p>
⑤ 4番目の高畠勲展だが、ほかの開催日数が大体1か月くらいのところ、こちらは2か月と長い。巡回展ということだが、備考欄にどこを回ってくるのか書いていない。前回はジブリ展が最後ということで、長蛇の列と駐車場の問題が起きて、多分順番次第ではまた同じように近隣に迷惑がかかるような状況になると思う。順番を教えていただきたい。	<p>(前回回答) 2019年に東京国立近代美術館で立ち上がり、その後岡山県、福岡県、さらに新潟県と回り、今年度に台湾で展覧会が巡回となっている。来年度は、当館の前後にも巡回館はあるが、当館で最後ということではない。</p> <p>混雑や駐車場のことも想定しており、駐車場の借り上げや交通整理の方々などの予算も盛り込んだ予算要求をしている。ただ、ジブリの大博覧会とは違い、中身はアニメーションの歴史をたどっていくという内容になる。じっくり見たり読んだりするようなところが多いと思う。</p>

## 6 協議事項「岩手県立美術館の運営」について

主な意見要望等	対応状況
<p>① ナイトミュージアムの内容を理解していないが、閉館後に何か招待しているのか。</p> <p>私たちのホテルは駅と美術館とすごく距離が近いので、宿泊とセットのイベントをお客様に販売といった何かお手伝いできるものができればいいと思う。</p>	<p>(前回回答) ナイトミュージアムは、夜の開館時間を通常6時までのものを9時まで延長して開館していたもの。ナイトミュージアムのときは、目玉のイベントとしてコンサートを開催し、お客様にコンサートと美術館、展覧会を夜遅くまで楽しんでいただくことで事業を実施していた。</p> <p>コロナが始まってからは、コンサートは諸事情で事業は実施していない。来年度に関しては予算の事情から、ナイトミュージアムは今のところ見送る方向で考えている</p> <p>(追加回答・総務) メトロポリタン盛岡様で、フィンランド展と高畠勲展の前売券と宿泊のセットが販売され、また、フィンランド展会期中にホテルでグッズの販売とフィンランド料理も提供されたことは、今後、企画展の協働展開の新たな事例になった</p>

	ものと考えております。
② 県立美術館というと、何となく敷居が高いイメージがある。私も仕事で関わる前は、足を運ぶ機会というのは、よっぽど見たい企画展がないと来なかつたので、アピールの工夫などを常に考えていただきたいと思う。企画展のたくさんオファーが来ているということだが、タイミングとかあると思うので、皆さんの知識を生かし、自ら今これが見たいという企画展をぜひ引っ張ってこられるような体制もできればいいと思う。弊社も事業部を持っていて、すごくそれが難しいことだというのは承知しているが、その気概を持って館も頑張っていっていただきたいと思う。	
③ この会議に出るのは初めて。我々青年と言われる年代ではあるが、美術と触れる機会というのがない。主に我々はまちづくりやひとづくりという部分に重きを置いてはいるが、こういったものに触れる機会というのがなかなかないので、何かしら触れ合う、コラボできるようなものがあれば、もっと興味関心を持つ人が増えると思いつつも、知る機会というのがないので、どう美術を広めていくかという部分に関して、考えていかなければならないと思う。今どうやって外部に対して発信しているのか教えていただきたい。	(前回回答) 今、美術館でも展覧会のPRに関しては、特に企画展が中心となる。県内の主要なテレビ局と新聞局にご協力いただき、展覧会のCMを作り、放送している。また、今各テレビ局では、土曜日の朝の情報番組にも力を入れ、いろいろな個性を出されているが、その中継枠を確保し、リポーターや芸人さんなどが美術館へ来て、その芸人たちの声を通じて、一般の方により興味を持って楽しんで来てもらえるように工夫して構成し、広報に取り組んでいるところである。
すばらしいことだと思う。ただ、20、30代というのは、なかなかテレビを見る機会が少なくなっている中で、ネットという部分が大きく情報を得る部分になってきている。我々も広報に毎回苦労はするが、SNS関係をどう駆使して展開していくのかというのは今の課題だと思うので考えてほしいと思う。	(追加回答・総務) 特に現在開催中の高畠勲展では、SNSでイベントやフォトスポット、グッズなどの情報を多く提供している。
④ この美術館のコレクション展はとにかくすばらしい。企画をしている担当の方の顔が見えるような本当にすばらしいものだと思う。 美術館の方にぜひお願ひしたいのは、ここにいる委員の人を何とか美術館のファンに仕立て上げるような努力をしてほしい。チラシをまくよとか、何かのときに紹介するというような協力のもらい方だけではなくて、ぴったりくっついて、何かを説明したり、コレクション展を見てもらう機会を持って、この方たちがファンになってくれるとファンがファンを呼んで、もっともっと美術館のファンが増え	

<p>ると思うので、そんな工夫をしてほしいと思う。</p>	
<p>⑤ 私も結構中央公園が好きで散歩に来るので、ふらっと寄ったりもするが、企画展のときにレストランで企画展メニューがあるが、企画展を思いだしながら味や目で見て料理を楽しんでいる。ぜひ来た方たちにも広めてほしい。</p> <p>私はよく宮城県の美術館に足を運ぶが、家族で自転車で来て、ふらっと中に入って見て、夏だとサンダル履きで来ている子供たちなど、本当にそういう方が多いので、岩手県の美術館もそうなるとすごくいいと思う。子供のときにテレビで見た絵と、美術の本で見たものが実際に岩手の美術館で見られるというのがすごく心に響くのではないか。</p> <p>バスで送迎して子供たちに美術鑑賞してもらう事業があり、イオンで御飯を食べたらそっちのほうがよかったです。修学旅行の中の1こまに入れるとか、県内外の学校に声をかけていくのも一つかなと私はこの資料を見たときに思った。</p>	
<p>⑥ 先ほども美術館のファンが増えたらいいというお話があったが、それで言うと、まさに私はオープンしたときからこここの美術館のファン。展示はほとんど全部、事情があって来られなかったとき以外は多分全部見ていると思う。展示はもちろんだが、これまで興味がある分野のものは講演会や関連のイベントも参加している。去年の秋くらいにこの委員のお話をいただいてからは1年間、来られる限りの講演会には参加した。あまり自分は詳しくないから、ちょっと難しいかも知れないなと思うような講演会も聞いてみると面白く、自分が知らない分野だからこそ学ぶことしかなくて、知ることはすごく面白いし、喜びで、それを聞いた後にまた展示を見ると、分かる分からないで言うと自分の感性でしかないが、やっぱり違うものなので、新しい感動があって、その瞬間というのはすごくいいなと思う。もっと皆さんに、こういう楽しみ方をいっぱいしてほしいと思うし、きっかけをどうやってそこに結びつけるかというのは、宣伝の仕方など難しいこともあると思うが、とにかくここに来ればそういう場がある。結構な頻度で週末ごとにいろんなイベントがあると思うが、常にそういう場をたくさん設けてくれてありがとうございますというのをなかなか直接</p>	

<p>言う機会がないので、この場でお伝えしたい。</p>	
<p>⑦ 今窓の奥のほうに丘が見えるが、丘の向こう側の再開発が進んでいて、ドッグカフェとかドッグランなど、ファミリー層もいっぱい集まるような状況になっている。せっかく近くまで来てくれるお客様を美術館側に引きつけるような野外での展示というのはできないのかなと思う。これから暑くなってくると日陰を求めたり、寒いときは建物の中に入つてこようかなとかと足を美術館に向けるようにできないか。とても立派な建物がゆえに敷居が高く見えてしまうのでは。何かうまく引き寄せられればと思う。</p> <p>タブレットでの学習やインターネットを使った学習というのは知っているものしか調べられない。知らないものを発見できるというのは、やっぱり美術館だったり、図書館だったり、実際行って感じる部分だと思うので、どうか学生たちをもっと引き込めるような何かがあつたらいいなと思う。</p>	
<p>⑧ 学校現場でも美術の教科はもちろん、美術が好きで様々な絵を描いたり、携わる子供たちもたくさんいる。リアルな作品を見て、子供たちも非常に影響を受けるのではないのかなということを私も常々感じているところ。</p> <p>そして、今日は県立美術館のスタッフの皆様の熱い思いを私も知ることができた。熱い思いを持って県民のためにご尽力いただいていることに、改めて敬意を表したいと思う。</p>	
<p>⑨ 小中合わせて造形教育連盟の会長をしているが、幼稚園、小学校、中学校の先生方の美術に関する講座を開いたときに、県立美術館の先生方に出前講座をしていただいた。そのとき作ったものを学校の子供たちが見て、これやってみたいと言っていたので、美術の展示だけではなくて教育活動にも本当に力をいただき、ありがたいなと思っている。</p> <p>10月30日に大友啓史監督と吉田学芸普及課長の講演に来たが、身近なアート、西洋のアートなどのお話しで、大友さんというのはすごいのだな、いろんなことを知っている方なのだなと思いながら、吉田学芸員の適切なアドバイスで、いろんな観点で作品の見方を教えていただきありがたかった。家族も連れて來たが、ワークショップにも参加し作った段</p>	

<p>ボールのお財布を孫も大変喜んで、すごく大事にしている。</p>	
<p>⑩ 不来方高校に芸術学系がある。音楽の活躍が目立っているが、実は美術・工芸コースの人数が非常に増えていて、取り組もうとしている学生、生徒は増えてきている。本校の生徒に限らず、こちらの常設展、高校生は無料で入れるということで、非常にありがたく思っており、その点については引き続きお願ひしたい。</p> <p>それから、本校では美術・工芸コースが年1回の見学をし、非常に勉強させていただいて助かっている。</p> <p>最後に、今小中高生は1人1台端末を持っていて、オンラインの授業、それから様々な情報が瞬時に入るようになっているが、やっぱり現場に足を運んで身近なもので触れ合うというのも絶対おろそかにしてはいけない。どっかに走るのではなく、双方いいものを利用するというのは大事な、これから時代かなと思うので、そういう意味では現場でいいものに触れ合うというところで、ここに足を運んでということが大きなテーマになっていくのかなと思う。</p>	
<p>⑪ 3時頃、美術館のラジオが流れる。館長やいろんな方たちがこの宣伝をしているが、すごく楽しみにしている。いい宣伝だなと思いながら聞いていた。</p> <p>企画展については全部見ていた。江口寿史展は写真撮影がオーケーで、若者はネットにより来て見ている。若い人たちが多かったのはネットを使った宣伝の効果によるところが随分大きいのだろうなと思った。ラジオの宣伝も含めて、いっぱい宣伝して欲しい。</p>	

## 令和5年度事業実施状況 〈令和5年4月1日～令和5年11月30日〉

## 1 美術等に関する資料収集、保管、展示調査研究等の事業

## ア 受託事業

事 業 名	主 な 事 業 内 容	
(1) 展示事業 【学芸業務】	<p>常設展示の充実を図るとともに、様々なテーマによる国内外の企画展等を開催</p> <p><b>ア コレクション展</b></p> <p>所蔵作品を広く公開し、郷土ゆかりの作家や作品を紹介。年4回の展示替え。</p> <p>① 4年度第4期 「杉本みゆき」 【11月末現在】 会期：(令和5年1月28日(土))4月1日(土)～4月23日(日) 観覧者数 521人</p> <p>② 第1期 「新収蔵作品のご紹介」 会期：令和5年4月28日(金)～7月9日(日) 1,962人</p> <p>③ 第2期 「げんだいびじゅつって？」 会期：令和5年7月14日(金)～10月15日(日) 3,873人</p> <p>④ 第3期 「菅沼緑 無責任な泉」 会期：令和5年10月21日(土)～令和6年1月21日(日) 984人</p> <p>⑤ 第4期 テーマ未定 (空想の世界を紹介) 会期：令和6年1月27日(土)～3月31日(日)(4月21日(日)まで)</p>	
	計 7,340人	
<b>イ 企画展</b>		
① みちのく いとしい仏たち 会期：令和5年4月8日(土)～5月21日(日) 【38日間】	観覧者数 8,268人	
② 面構 片岡球子展 たちむかう絵画 会期：令和5年6月3日(土)～7月17日(月・祝) 【39日間】	5,600人	
③ フィンランドのライフスタイル 会期：令和5年7月29日(土)～9月10日(日) 【40日間】	22,182人	
④ 高畠勲展 会期：令和5年9月30日(土)～12月17日(日) 【68日間】	16,202人	
⑤ そのとき、岩手では 会期：令和6年1月6日(土)～2月18日(日) 【38日間】		
⑥ アートフェスティワ2023 会期：令和6年3月2日(土)～3月24(日) 【20日間】		
	計 52,252人	

事 業 名	主 な 事 業 内 容		
(2) 教育普及事業 【学芸業務】	講演会、ワークショップ等を実施し、美術と美術館利用についての普及活動を推進		
<b>ア 展示関連事業</b>			
〈企画展教育プログラム〉			
(1) ギャラリートーク 学芸員による企画展示作品の解説	① みちのく いとしい仏たち (4/14 (金)、4/28 (金)、5/12 (金))	参加者数	86人
② 面構 片岡球子展 たちむかう絵画 (6/16 (金)、6/30 (金)、7/8 (土)、7/14 (金))			69人
③ フィンランドのライフスタイル (8/4 (金)、8/18 (金)、9/1 (金))			200人
④ 高畠勲展 (10/6 (金)、10/20 (金)、11/3 (金)、12/1 (金)、 12/15 (金))			96人
⑤ そのとき、岩手では			
⑥ アートフェスティワ2023			
		計	451人
(2) 企画展関連講座等			
① みちのく いとしい仏たち	・講演会「みちのくの仏たち 知られざるもう一つの魅力」 4/22 (土) 講師：須藤弘敏氏（弘前大学名誉教授）	参加者数	170人
・ワークショップ「たのしく描こう！仏さま」 4/30 (日)			13人
・講演会「日本美術における『かわいい』について」 5/4 (木・祝) 講師：矢島新氏（跡見学園女子大学教授）			85人
② 面構 片岡球子展 たちむかう絵画	・開催記念講演会「片岡球子—“面構”創造の現場」 6/10 (日) 講師：土岐美由紀氏（北海道立近代美術館 学芸統括官）		48人
・ワークショップ「『色と文様』を味わう手描き友禅体験」 7/1 (土) 講師：菅原高幸氏（友禅作家）			18人
③ フィンランドのライフスタイル	・イベント ワークショップ「ヒンメリをつくろう」 7/28 (金) 講師：山本睦子氏（ヒンメリ作家）		16人
・開幕記念対談「フィンランドの記憶」、サイン会 7/29 (土) 出演：石本藤雄氏（テキスタイルデザイナー） 平井千里馬氏（スコープ代表）			205人
・講演会「アルテック スツール60」 8/5 (土) 講師：林アンニ氏（アルテック セールスディレクター）			60人
・講演会「岩手とフィンランド」 8/6 (日) 講師：工藤哲人氏（岩手めんこいテレビ プロデューサー）			61人
④ 高畠勲展	・講演会「高畠監督の挑戦-アニメーションを共に創りながら思ったこと」、 サイン会 10/21 (土) 講師：才田俊次氏（オープロダクション所属）		99人

事 業 名	主 な 事 業 内 容		
(教育普及事業)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高畠勲展関連映画上映「おもひでばろばろ」 10/29 (日) 27人</li> <li>・講演会「高畠勲の革新的演出術—『火垂るの墓』を中心に—」11/5 (日) 58人</li> <li>　　講師：叶精二氏（映像研究家）</li> <li>・高畠勲展関連映画上映「ホーホケキョ となりの山田くん」 11/19 (日) 48人</li> <li>・高畠勲展関連映画上映「かぐや姫の物語」 11/26 (日) 43人</li> <li>⑤ そのとき、岩手では <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催記念対談「岩手の美術とともに歩んで」</li> <li>・講師：佐々木繁美氏（元盛岡市民文化ホール館長）</li> <li>　　平澤広氏（萬鉄五郎記念美術館館長）</li> </ul> </li> <li>⑥ アートフェスティワード2023講演会</li> </ul>		計 951人
〈コレクション展教育プログラム〉			
(1) コレクショントーク	学芸員によるコレクション展示作品の解説（月2回）15回	参加者数	147人
(2) コレクション展関連講座	コレクション展に関連した講演会、ワークショップ等		11人
		計	158人
イ 美術普及事業			
〈スタジオプログラム〉			
(1) オープンスタジオ 7/22 (土) ~23日 (日)	参加者数	158人	
(2) アートデオヤコ 親子でいろいろな素材に触れて楽しむワークショップ			
・対象：3～6歳児と保護者（月1回、10組）5回		106人	
・こどもの日スペシャル（5/5（金・祝））		173人	
	計	437人	
〈教育プログラム〉			
学生サポートスタッフの受け入れ・育成 随時	受入人数	43人	
〈美術プログラム〉			
(1) 館長講座 「作り手の視点」（全4回） 講師：藁谷収（当館館長）			
①「ヴェネツィアを観る」 5/20 (土)	参加者数	47人	
②「菅木志雄展」を振り返る 8/26 (土)		24人	
③「彫刻家の道具」 11/25 (土)		17人	
④「現代美術の楽しみ」 2/24 (金)			
	計	88人	
(2) 学芸員講座 年2回程度			
・「無責任な泉 菅沼縁」 10/22 (土)	参加者数	21人	
(3) 実技体験講座 年6回			
①人体デッサン 11/11 (土)	参加者数	30人	
②日本画基礎 11/23 (土)		14人	
	計	44人	

事 業 名	主 な 事 業 内 容																																
(教育普及事業)	<p>〈映像プログラム〉</p> <p>(1) アートシネマ上映会 年12回程度 美術に関連する作品から名作映画まで幅広いラインナップで上映</p> <table> <tr> <td>①クリスト・ウォーキング・オン・ウォーター 4/16（日）</td> <td>鑑賞者数 33人</td> </tr> <tr> <td>②子熊物語 5/14（日）</td> <td>35人</td> </tr> <tr> <td>③トゥーブラザーズ 6/18（日）</td> <td>44人</td> </tr> <tr> <td>④劇場版ムーミン谷の彗星 7/30（日）</td> <td>84人</td> </tr> <tr> <td>⑤サウナのあるところ 8/20（日）</td> <td>76人</td> </tr> <tr> <td>⑥東京物語 9/10（日）</td> <td>50人</td> </tr> <tr> <td>⑦アートのお値段 10/15（日）</td> <td>27人</td> </tr> <tr> <td>⑧ファウスト（無声映画/弁士・伴奏付き） 11/12（日）</td> <td>80人</td> </tr> <tr> <td>⑨夜のとぼりの物語 12/10（日）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑩短編傑作選「男の子の名前はみんなパトリックっていうの」 「水の話」「シャルロットとジュール」 1/21（日）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑪はなればなれに 2/18（日）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑫雨月物語 3/17（日）</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">計 429人</p> <p>(2) アートスペース、デジタルビジョン、デジタルレファレンス</p> <table> <tr> <td>①ライブラリー 通年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②デジタルビジョン 美術に関連した映像作品を無料公開 通年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③デジタルレファレンス 通年</td> <td></td> </tr> </table>	①クリスト・ウォーキング・オン・ウォーター 4/16（日）	鑑賞者数 33人	②子熊物語 5/14（日）	35人	③トゥーブラザーズ 6/18（日）	44人	④劇場版ムーミン谷の彗星 7/30（日）	84人	⑤サウナのあるところ 8/20（日）	76人	⑥東京物語 9/10（日）	50人	⑦アートのお値段 10/15（日）	27人	⑧ファウスト（無声映画/弁士・伴奏付き） 11/12（日）	80人	⑨夜のとぼりの物語 12/10（日）		⑩短編傑作選「男の子の名前はみんなパトリックっていうの」 「水の話」「シャルロットとジュール」 1/21（日）		⑪はなればなれに 2/18（日）		⑫雨月物語 3/17（日）		①ライブラリー 通年		②デジタルビジョン 美術に関連した映像作品を無料公開 通年		③デジタルレファレンス 通年			
①クリスト・ウォーキング・オン・ウォーター 4/16（日）	鑑賞者数 33人																																
②子熊物語 5/14（日）	35人																																
③トゥーブラザーズ 6/18（日）	44人																																
④劇場版ムーミン谷の彗星 7/30（日）	84人																																
⑤サウナのあるところ 8/20（日）	76人																																
⑥東京物語 9/10（日）	50人																																
⑦アートのお値段 10/15（日）	27人																																
⑧ファウスト（無声映画/弁士・伴奏付き） 11/12（日）	80人																																
⑨夜のとぼりの物語 12/10（日）																																	
⑩短編傑作選「男の子の名前はみんなパトリックっていうの」 「水の話」「シャルロットとジュール」 1/21（日）																																	
⑪はなればなれに 2/18（日）																																	
⑫雨月物語 3/17（日）																																	
①ライブラリー 通年																																	
②デジタルビジョン 美術に関連した映像作品を無料公開 通年																																	
③デジタルレファレンス 通年																																	
ウ アウトリーチ事業																																	
(1) 美術館出前授業（職員講師） 地区ごとに順次実施	参加者数 236人																																
(2) 美術関連研修講師派遣（同） 随時	39人																																
	計 275人																																
エ 来館者対応事業																																	
(1) 美術館探検（てくてくツアーア） 年6回 5/20（土）、7/15（土）、9/16（土）、11/18（土）、1/20（土）、3/16（土）	参加者数 40人																																
(2) 一般団体等対応																																	
①一般団体対応	290人																																
②ファミリータイムの導入 小さな子どもと大人と一緒に美術館を利用しやすい時間帯の設定 毎月第2木曜日・第4土曜日 13回実施	73人																																
	計 403人																																
(3) 学校団体対応（34団体）※生徒インタビュー含む	参加者数 1,035人																																
(3) 広報事業 【学芸業務】	美術館ニュース等の各種広報物の印刷・配布による広報業務を実施																																
	(1) 美術館通年広報																																
	(2) 広報協力店による情報発信（令和5年11月30日現在 284店舗）																																
	(3) 広報番組での各種事業の紹介																																

事 業 名	主 な 事 業 内 容
(広報事業)	<p>(4) 美術館ニュース「アブリーレ」(年2回 各回約14,500部発行)の発行</p> <p>(5) 企画展チラシ、ポスターの発行</p> <p>(6) 常設展展示目録(展示替え毎)の発行</p> <p>(7) 美術館スケジュール(年4回 各回約15,000部)の発行</p> <p>(8) ホームページでの広報宣伝</p> <p>(9) ツイッター及びフェイスブックでの発信</p>
(4) その他の事業 【学芸業務】	<p><b>ア 調査研究活動事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ライブラリー 通年</li> <li>・ ライブラリー企画 年6回</li> <li>・ 蔵書整理公開</li> </ul> <p><b>イ 美術品修復、保存事業</b></p> <p>県民の財産である美術品をより良い状態で保存して後世に伝え るため、所蔵作品の修復と保存業務を実施</p>

#### イ 自主事業

事 業 名	主 な 事 業 内 容
(1) 美術(館) に親しむ事業	<p><b>ア 特別自主事業</b></p> <p>観覧者誘因策として有料観覧者数1,000人を達成目標にイベントを実施する。</p> <p><b>イ コンサート事業</b></p> <p>美術館固有の空間を活用し、コンサートホールとはひと味違った音楽等の鑑賞の機会を提供する。多様な芸術体験の場として美術館をより多くの県民に知ってもらう。</p>
(2) その他の事業	<p><b>図録等著作物販売サービス事業</b></p> <p>美術館発行の図録の頒布を行い、利用者サービスの充実を図る。</p>

#### (2) 指定管理事業

事 業 名	主 な 事 業 内 容
指定管理事業 【指定管理】	<p><b>観覧料の徴収及び管理運営</b></p> <p>(1) 臨時開館日 5月1日(月)、8月14日(月)</p> <p>(2) 観覧料無料の日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① こどもの日 5月5日(金・祝) 対象: 18歳未満の児童生徒</li> <li>② 敬老の日 9月18日(月・祝) 対象: 満65歳以上</li> <li>③ 文化の日 11月3日(金・祝) 対象: 全員</li> </ul>

事 業 名	主 な 事 業 内 容																																																	
(指定管理事業)	<p><b>(3) 観覧者数等の状況</b></p> <p><b>【11月30日現在の鑑賞者数 単位：人】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th><th>11月</th><th>小計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5年度 a</td><td>3,665</td><td>6,154</td><td>3,604</td><td>5,289</td><td>15,047</td><td>8,491</td><td>6,852</td><td>10,490</td><td><b>59,592</b></td></tr> <tr> <td>4年度 b</td><td>1,766</td><td>4,369</td><td>5,372</td><td>7,054</td><td>13,054</td><td>5,982</td><td>5,407</td><td>3,017</td><td><b>46,021</b></td></tr> <tr> <td>増減(a-b)</td><td>1,899</td><td>1,785</td><td>▲ 1,768</td><td>▲ 1,765</td><td>1,993</td><td>2,509</td><td>1,445</td><td>7,473</td><td><b>13,571</b></td></tr> </tbody> </table>										年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	小計	5年度 a	3,665	6,154	3,604	5,289	15,047	8,491	6,852	10,490	<b>59,592</b>	4年度 b	1,766	4,369	5,372	7,054	13,054	5,982	5,407	3,017	<b>46,021</b>	増減(a-b)	1,899	1,785	▲ 1,768	▲ 1,765	1,993	2,509	1,445	7,473	<b>13,571</b>
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	小計																																									
5年度 a	3,665	6,154	3,604	5,289	15,047	8,491	6,852	10,490	<b>59,592</b>																																									
4年度 b	1,766	4,369	5,372	7,054	13,054	5,982	5,407	3,017	<b>46,021</b>																																									
増減(a-b)	1,899	1,785	▲ 1,768	▲ 1,765	1,993	2,509	1,445	7,473	<b>13,571</b>																																									
	<p><b>(4) 教育普及事業の状況</b></p> <p><b>【11月30日現在の参加者数 単位：人】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th><th>11月</th><th>小計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5年度 a</td><td>385</td><td>507</td><td>287</td><td>862</td><td>571</td><td>375</td><td>606</td><td>742</td><td><b>4,335</b></td></tr> <tr> <td>4年度 b</td><td>279</td><td>701</td><td>773</td><td>1,382</td><td>752</td><td>524</td><td>638</td><td>343</td><td><b>5,392</b></td></tr> <tr> <td>増減(a-b)</td><td>106</td><td>▲ 194</td><td>▲ 486</td><td>▲ 520</td><td>▲ 181</td><td>▲ 149</td><td>▲ 32</td><td>399</td><td><b>▲ 1,057</b></td></tr> </tbody> </table>										年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	小計	5年度 a	385	507	287	862	571	375	606	742	<b>4,335</b>	4年度 b	279	701	773	1,382	752	524	638	343	<b>5,392</b>	増減(a-b)	106	▲ 194	▲ 486	▲ 520	▲ 181	▲ 149	▲ 32	399	<b>▲ 1,057</b>
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	小計																																									
5年度 a	385	507	287	862	571	375	606	742	<b>4,335</b>																																									
4年度 b	279	701	773	1,382	752	524	638	343	<b>5,392</b>																																									
増減(a-b)	106	▲ 194	▲ 486	▲ 520	▲ 181	▲ 149	▲ 32	399	<b>▲ 1,057</b>																																									
	<p><b>(5) 地域連携事業による広報活動</b></p> <p>岩手県立美術館、盛岡市先人記念館、原敬記念館、盛岡市子ども科学館、盛岡市遺跡の学び館、志波城古代公園で組織する「もりとぴあねっと」に参画し、地域連携事業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① さんさこみち共同告知コーナーの活用（企画展の告知）</li> <li>② もりとぴあねっと企画会議等 2ヶ月に1回程度開催</li> <li>③ 「もりとぴあねっとだより」の作成と配布 隔月発行</li> </ul>																																																	

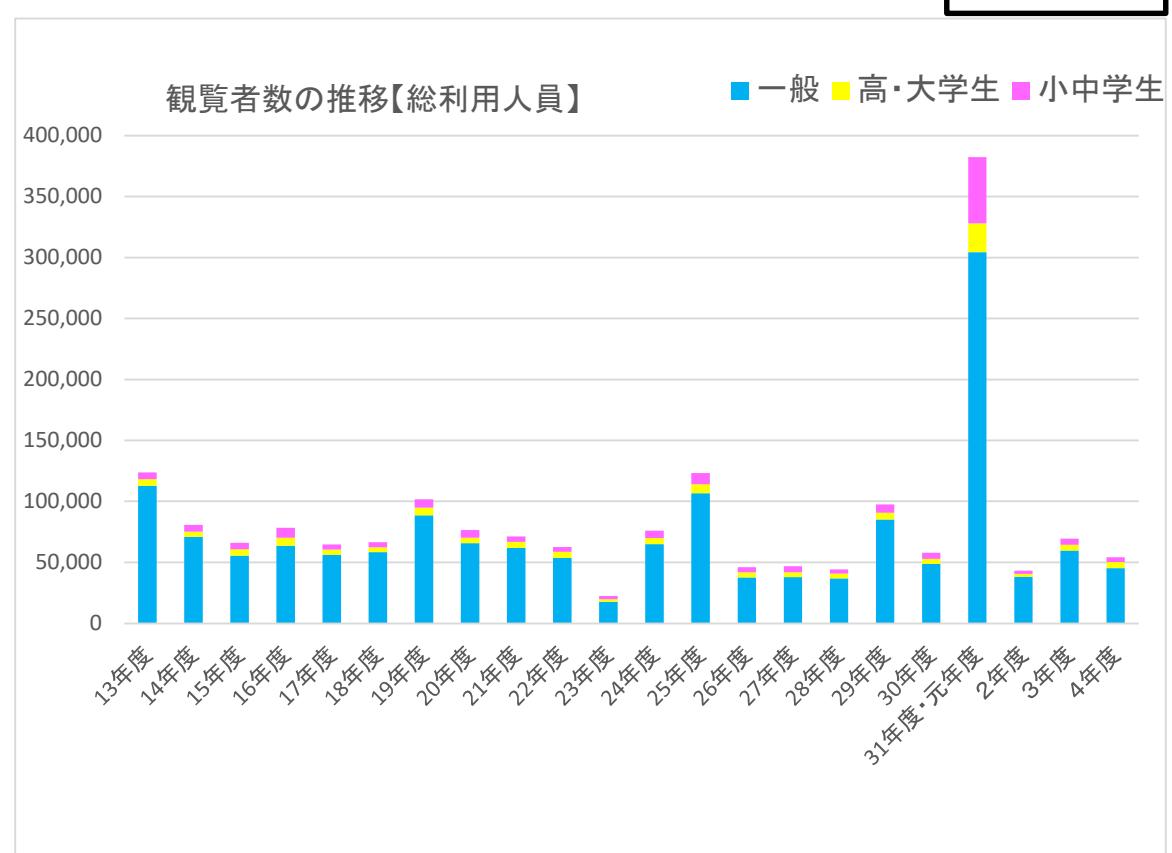
## 観覧者数の推移

資料 4

区分年度	個人利用				団体利用				免除利用				総利用人員								開館日数	1日平均利用人数
	一般	高・大学生	小中学生	計	一般	高・大学生	小中学生	計	一般	高・大学生	小中学生	計	一般	高・大学生	小中学生	計	(うち常設展)	(うち企画展)	(うち移動美術館)			
13年度	89,875	4,151	4,602	98,628	3,081	292	70	3,443	19,780	1,027	804	21,611	112,736	5,470	5,476	123,682	21,869	101,813	-	151	819	
14年度	43,048	2,495	2,234	47,777	10,407	515	202	11,124	17,466	1,233	2,961	21,660	70,921	4,243	5,397	80,561	15,945	62,832	1,784	315	256	
15年度	35,585	2,410	1,937	39,932	4,894	471	254	5,619	14,903	2,601	2,920	20,424	55,382	5,482	5,111	65,975	11,688	52,992	1,295	316	209	
16年度	44,237	3,658	4,807	52,702	3,845	619	108	4,572	15,522	2,201	3,342	21,065	63,604	6,478	8,257	78,339	10,388	66,949	1,002	314	249	
17年度	37,525	2,497	1,703	41,725	3,051	408	132	3,591	15,735	1,228	2,445	19,408	56,311	4,133	4,280	64,724	6,319	57,357	1,048	312	207	
18年度	37,196	2,301	1,900	41,397	3,579	324	48	3,951	17,538	1,438	2,102	21,078	58,313	4,063	4,050	66,426	6,130	59,760	536	315	211	
19年度	64,367	3,535	4,069	71,971	3,837	987	71	4,895	20,391	1,727	2,730	24,848	88,595	6,249	6,870	101,714	7,124	94,590	-	317	321	
20年度	44,384	2,609	2,505	49,498	3,071	413	70	3,554	18,231	1,452	3,728	23,411	65,686	4,474	6,303	76,463	6,816	69,647	-	316	242	
21年度	45,578	3,034	1,437	50,049	2,380	436	35	2,851	13,836	1,474	2,998	18,308	61,794	4,944	4,470	71,208	7,158	64,050	-	307	232	
22年度	36,790	2,931	1,590	41,311	2,055	583	35	2,673	14,780	1,402	2,515	18,697	53,625	4,916	4,140	62,681	5,830	56,851	-	303	207	
23年度	9,742	382	0	10,124	589	285	0	874	7,412	1,261	2,702	11,375	17,743	1,928	2,702	22,373	17,681	4,692	-	306	73	
24年度	49,595	2,432	2,167	54,194	1,428	599	3	2,030	13,831	2,035	3,944	19,810	64,854	5,066	6,114	76,034	23,113	52,921	-	308	247	
25年度	86,971	1,674	1,980	90,625	1,796	362	0	2,158	17,895	5,360	7,240	30,495	106,662	7,396	9,220	123,278	5,919	117,359	-	310	398	
26年度	24,038	1,436	1,352	26,826	781	595	13	1,389	12,686	2,397	2,771	17,854	37,505	4,428	4,136	46,069	5,853	40,216	-	310	149	
27年度	21,266	1,505	1,091	23,862	2,533	298	363	3,194	14,169	2,121	3,395	19,685	37,968	3,924	4,849	46,741	5,701	41,040	-	310	151	
28年度	16,405	1,215	423	18,043	7,764	654	342	8,760	12,776	1,999	2,657	17,432	36,945	3,868	3,422	44,235	6,192	38,043	-	314	141	
29年度	50,497	2,974	2,673	56,144	17,438	758	1,212	19,408	17,221	1,869	2,727	21,817	85,156	5,601	6,612	97,369	5,551	91,818	-	312	312	
30年度	24,486	1,826	958	27,270	12,621	614	765	14,000	11,611	1,733	3,134	16,478	48,718	4,173	4,857	57,748	6,145	51,603	-	312	185	
31年度・元年度	247,671	19,774	45,593	313,038	34,484	1,804	5,537	41,825	22,115	2,146	3,309	27,570	304,270	23,724	54,439	382,433	6,098	376,335	-	313	1,222	
2年度	20,322	994	393	21,709	10,000	258	305	10,563	7,826	1,143	2,030	10,999	38,148	2,395	2,728	43,271	5,060	38,211	-	297	146	
3年度	50,456	3,204	3,029	56,689	382	1,091	381	1,854	8,887	430	1,666	10,983	59,725	4,725	5,076	69,526	5,186	64,340	-	277	251	
4年度	37,373	3,399	1,728	42,500	151	50	0	201	7,826	1,506	2,156	11,488	45,350	4,955	3,884	54,189	5,186	49,003	-	310	175	
計	1,117,407	70,436	88,171	1,276,014	130,167	12,416	9,946	152,529	322,437	39,783	64,276	426,496	1,570,011	122,635	162,393	1,855,039	196,952	1,652,422	5,665	6,645	279	

資料 4-2

区分年度	総利用人員			
	一般	高・大学生	小中学生	計
13年度	112,736	5,470	5,476	123,682
14年度	70,921	4,243	5,397	80,561
15年度	55,382	5,482	5,111	65,975
16年度	63,604	6,478	8,257	78,339
17年度	56,311	4,133	4,280	64,724
18年度	58,313	4,063	4,050	66,426
19年度	88,595	6,249	6,870	101,714
20年度	65,686	4,474	6,303	76,463
21年度	61,794	4,944	4,470	71,208
22年度	53,625	4,916	4,140	62,681
23年度	17,743	1,928	2,702	22,373
24年度	64,854	5,066	6,114	76,034
25年度	106,662	7,396	9,220	123,278
26年度	37,505	4,428	4,136	46,069
27年度	37,968	3,924	4,849	46,741
28年度	36,945	3,868	3,422	44,235
29年度	85,156	5,601	6,612	97,369
30年度	48,718	4,173	4,857	57,748
31年度・元年度	304,270	23,724	54,439	382,433
2年度	38,148	2,395	2,728	43,271
3年度	59,725	4,725	5,076	69,526
4年度	45,350	4,955	3,884	54,189
計	1,570,011	122,635	162,393	1,855,039



【令和4年度企画展観覧者数】				
	展覧会名	期間	開催日数	観覧者数
1	東北へのまなざし展	4.9～5.15	33	4,147
2	Human and Animal展	5.28～7.3	32	6,238
3	江口寿史展	7.16～9.4	45	20,982
4	福富太郎の眼展	9.17～11.6	44	8,532
5	IMAをうつす7人展	11.26～2.12	63	3,710
6	アートフェスタ2022	2.25～3.19	20	3,042
計			237	46,651

【令和4年度企画展観覧者数】

	展覧会名	期間	開催日数	観覧者数
1	東北へのまなざし展	4.9～5.15	33	4,147
2	Human and Animal展	5.28～7.3	32	6,238
3	江口寿史展	7.16～9.4	45	20,982
4	福富太郎の眼展	9.17～11.6	44	8,532
5	IMAをうつす7人展	11.26～2.12	63	3,710
6	アートフェスタ2022	2.25～3.19	20	3,042
計			237	46,651

## 令和6年度事業実施計画（案）

## 1 美術等に関する資料収集、保管、展示調査研究等の事業

## (1) 受託事業

事 業 名	主 な 事 業 内 容
展示事業 【学芸委託】	<p>常設展示の充実を図るとともに、様々なテーマによる国内外の企画展等を開催。</p> <p>(ア) コレクション展の開催 所蔵作品を広く公開し、郷土ゆかりの作家や作品を紹介。年4回の展示替え。</p> <p>(イ) 企画展の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 堀内誠一 絵の世界 会期：令和6年4月13日（土）～6月2日（日）【44日間】</li> <li>② 川端龍子展 会期：令和6年6月15日（土）～7月28日（日）【38日間】</li> <li>③ サンリオ ニッポンのカワイイ文化60年史 会期：令和6年8月10日（土）～10月6日（日）【51日間】</li> <li>④ 柚木沙弥郎 永遠のいま 会期：令和6年10月19日（土）～12月22日（日）【56日間】</li> <li>⑤ 平間至展（仮） 会期：令和7年1月11日（土）～2月24日（月・祝）【40日間】</li> <li>⑥ アートフェスティわて2024 会期：令和7年3月4日（火）～3月23（日）【18日間】</li> </ul>
教育普及事業 【学芸委託】	<p>講演会、ワークショップ等を実施し、美術と美術館利用についての普及活動を推進。</p> <p>(ア) 展示関連事業</p> <p>〈企画展教育プログラム〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① ギャラリートーク 月 2回程度 学芸員による企画展示作品の解説</li> <li>② 企画展関連講座 年10回程度 企画展に関連した講演会、ワークショップ等を実施</li> </ul> <p>〈コレクション展教育プログラム〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① コレクショントーク 月 2回 学芸員による常設展示作品の解説</li> <li>② コレクション展関連講座 年 3回程度 コレクション展に関連した講演会、ワークショップ等を実施</li> </ul>

事 業 名	主 な 事 業 内 容
(教育普及事業)	<p>(イ) 美術普及事業</p> <p>〈スタジオプログラム〉</p> <p>① オープンスタジオ 年2回 子どもから大人までを対象とした自由参加の体験ワークショップを実施</p> <p>② アートデオヤコ 月1回 就学前の子供とその保護者を対象としたワークショップを実施</p> <p>③ 実技体験講座 年3回程度 画材や技法に関するワークショップを実施</p> <p>〈教育プログラム〉</p> <p>学生サポートスタッフの受入れ・育成 隨時</p> <p>〈美術プログラム〉</p> <p>① 館長講座 年4回程度</p> <p>② 学芸員講座 年2回程度</p> <p>〈映像プログラム〉</p> <p>① アートシネマ上映会 年12回程度</p> <p>② アートスペース、デジタルビジョン、デジタルレファレンス            (a) ライブラリー 通年            (b) デジタルビジョン 通年</p> <p>美術に関連した映像作品を無料公開</p> <p>(c) デジタルレファレンス 通年</p> <p>(ウ) アウトリーチ事業</p> <p>① 美術館出前授業（職員講師） I C T を活用し全県を対象に実施</p> <p>② 社会教育施設研修講師派遣（同） 隨時</p> <p>(エ) 来館者対応事業</p> <p>① 美術館探検（てくてくツアーア） 年6回</p> <p>② 一般団体対応（団体対応、ファミリータイムを含む） 隨時</p> <p>③ 学校団体対応 隨時</p>
広報事業 【学芸委託】	美術館ニュース、チラシ、各種ポスター等の印刷・配布による広報業務を実施。
その他の事業 【学芸委託】	<p>(ア) 調査研究活動事業 本県の美術をはじめとして国内外の美術に関する調査を行い、その成果を美術品の収集や企画展等に反映させるとともに、美術品教育や美術品の保存技術等、美術館固有のテーマについての調査研究にも取り組む。</p> <p>(イ) 美術品修復保存事業 県民の財産である美術品をより良い状態で保存して後世に伝えるため、所蔵作品の修復と保存業務を実施。</p>

## (2) 自主事業

事 業 名	主 な 事 業 内 容
美術（館）に 親しむ事業	(ア) 特別自主事業 観覧者誘因策として有料観覧者1,000人を達成目標にイベントを実施する。 (イ) コンサート事業 美術館固有の空間を活用し、コンサートホールとはひと味違った音楽等の鑑賞の機会を提供する。多様な芸術体験の場として美術館をより多くの県民に知ってもらう。
その他の事業	図録等著作物販売サービス事業 美術館発行の図録の頒布を行い、利用者サービスの充実を図る。

## 2 指定管理事業

事 業 名	主 な 事 業 内 容
指定管理事業	(ア) 観覧料の徴収、施設・設備等の適正な管理を行うとともに、学芸部門との連携協力により広報活動やイベントを充実させ、館利用の促進を図る。 (イ) 岩手県立美術館、盛岡市先人記念館、原敬記念館、盛岡市子ども科学館、盛岡市遺跡の学び館、志波城古代公園で組織する「もりとぴあねっと」に参画し地域連携事業を実施する。

## 令和6年度企画展概要（案）

資料 6

No.	展覧会名	開催形態	会期	開催日数	ジャンル	概要	備考(巡回先等)
1	堀内誠一 絵の世界	巡回展	4/13（土）～6/2（日）	44	絵本、デ ザイン	伝説のアートディレクターであり、デザイナーであり、絵本作家でもあった堀内誠一（1932-1987、東京生まれ）の「絵の世界」に注目した展覧会。若い頃よりデザイナーとして研鑽を積んだ堀内は、アートディレクターとして時代をリード、「anan」、「BRUTUS」、「たくさんふしき」などの雑誌のロゴや、本の表紙、ポスターのデザインなど多彩な仕事を展開した。一方、絵本『くろうまブランキー』をはじめ、「ぐるんばのようちえん」、「たろうのおでかけ」、「こすりめのぼうけん」など数多くの名作絵本も生み出した。本展は、10代の時に描いた油絵を出発点に、絵本の原画、デザインにおける作画、雑誌のためのカットなどにより、堀内の創作の原点ともいえる「描くこと」を紐解く。	ひろしま美術館 2023年7月1日（土）～8月20日（日） 群馬県立館林美術館 2023年10月7日（土）～12月17日（日） 岩手県立美術館 2024年4月13日（土）～6月2日（日）
2	川端龍子展	巡回展	6/15（土）～7/28（日）	38	近代日本 画	川端龍子（1885-1966）は、戦前から戦後にかけて活躍した日本画家である。大衆に訴える作品を目指し、日本画の枠組みを破るために、規格外の大画面による制作を行った。当初は再興日本美術院展に作品を発表していた川端であったが、彼の荒々しい作風が理解されずに脱落、1929年（昭和4年）には「青龍社」を旗揚げ、「会場芸術」としての日本画を主張して、巨大な画面に独自の画題を描いたダイナミックな作品を次々に制作した。 本展では、大田区立龍子記念館の所蔵する作品の中から龍子の初期から晩年に至るまでの作品を選定し、彼の業績を辿るものである。	富山県水墨美術館 2024年3月15日（金）～5月26日（日） 島根県立美術館 2025年7月18日（金）～8月25日（月） 碧南市藤井達吉現代美術館 2025年9月15日（月祝）～11月24日（月振）
3	サンリオ ニッポンのカワイイ文化 60年史	巡回展	8/10(土)～10/6(日)	51	キャラク ター	2020年で創業60を迎えたサンリオ。60年の間に450以上のキャラクターを生み出したサンリオの歴史は、そのまま日本のカワイイ文化の歴史と言っても過言ではない。 いまや「カワイイ」という言葉は世界で通用するワードとなり、また日本美術の一側面を成す要素である。 本展では、サンリオ創業以前の歴史から紐解いていき、日本が産んだカワイイ文化の成り立ちや発展について、またその裏にある「サンリオの想い」を貴重なデザインや商品開発とともに紹介する。 また、サンリオの歴史を象徴するようなインスタレーション作品のほか、深堀隆介ら日本の現代アーティストによる本展オマージュ作品も併せて展示する。	東奥日報新町ビル第3展示室 2023年10月28日（土）～12月3日（日） 石川県立歴史博物館 2023年12月23日（土）～2024年3月10日（土）
4	袖木沙弥郎 永遠のいま	巡回展・自主 企画展	10/19（土）～12/22（日）	56	染織、デ ザイン	染色家、袖木沙弥郎（1922-）の大回顧展。戦後、職を得た大原美術館で、柳宗悦らによる民藝運動に出会い、芹沢銓介のもとで、染色家としての道を歩みはじめた袖木は、1990年代以降は、版画やコラージュ、絵本など、その創作世界をより豊かに広げ続けている。100歳を超えてなお、人生をしなやかに生き、身の回りの「もの」に対する愛着や、日々の暮らしの中に見出した喜びから作品を紡ぎだす袖木の仕事は、変化の時代にこそ、大切に慈しみたい「いま」を私たちに示してくれる。本展では、作家の長年にわたる活動を概観するとともに、「いま」を生きるアーティスト、袖木沙弥郎の最新の仕事も紹介する。なお、袖木は岩手、盛岡ともゆかりが深く、当館の所蔵作家ともなっている。	当館立上り館 岡山県立美術館 2025年2月14日～3月23日 島根県立美術館 2025年4月18日～6月16日 静岡市美術館 2025年8月16日～10月13日 東京オペラシティ アートギャラリー 2025年10月22日～12月25日
5	平間至展（仮）	巡回展	1/11（土）～2/24（月祝）	40	写真	タワーレコードのキャンペーン「NO MUSIC, NO LIFE.」をはじめ、1990年代から現在まで数えきれないアーティストたちの写真を手がけ、それまでになかった“音楽が聴こえてくるような躍動感あるポートレート”で写真界に新しいスタイルを打ち出した写真家、平間至（1963-、塩竈市生まれ）の個展。平間の名を一躍世に知らしめた（MOTOR DRIVE）などの初期作品、タワーレコードのキャンペーン「NO MUSIC, NO LIFE.」をはじめとした様々なメディアのために撮影された膨大なアーティストのポートレートから精選された作品群、舞踊家・田中泯を追いつけたシリーズ「場踊り」、東日本大震災後に撮影された内省的な心象風景シリーズ（光景）、平間写真館で撮影された作品などを「写真と音楽」をテーマに精選した約250点を紹介。	ヒカリエホール（東京都） 2023年7月8日（土）～8月23日（水） グランシップ（静岡県） 2023年7月25（火）～8月20日（日）
6	アートフェスタ いわて2024	自主企画、県 芸術祭実行委 員会との共催	3/4（火）～3/23（日）	18	岩手	本展は22回目の展示。2024年秋に開催される第77岩手芸術祭美術展の受賞（芸術祭賞、優秀賞、奨励賞）作品に加え、日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書道、写真、デザイン、現代美術、水墨画の10部門それぞれから推薦された美術家たちの作品100点を展示。令和5年に受賞した令和4年度岩手県美術選奨受賞作家5人の作品も併せて展示。	